

会 議 の 名 称	茅野市行財政改革推進市民委員会 第5回委員会		
開 催 日 時	平成30年1月29日(月) 18時30分～20時30分		
開 催 場 所	議会棟大会議室		
出 席 者	※出席委員等：金子委員長、鳥居副委員長、山室委員、池上委員、長田委員、鶴石委員、安藤委員、篠原委員、石渡委員 ※市側出席者：樋口副市長、柿澤企画部長、伊藤総務部長、小池市民環境部長、田中会計管理者、土橋総務課長、堀内管理課長、小島税務課長、岩崎地域戦略課長、田中パートナーシップのまちづくり推進課長、牛山市民活動センター長、小平企画財政課長、原田企画係長、竹村企画係主査、吉澤企画係主査		
欠 席 者	義経委員、丸茂委員、牛山委員、小松委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	○議事 1 開 会 2 委員長挨拶 3 協議事項 (1)指標設定における過去のトレンドについて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> (2)茅野市行政経営基本計画(案)について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> 4 その他 今後のスケジュールについて 6 閉会 ○議事録 1 開 会 2 委員長挨拶 ・いよいよ当計画の策定も佳境に入り、意見交換は本日が最後となる。3月20日には答申を出すための委員会が予定されている。これまで活発な意見をいただきありがとうございます。本日もよろしく審議をお願いします。		
委員長			
吉澤企画係主査	3 協議事項 (1)指標設定における過去のトレンドについて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> ・・・・資料1に基づき説明・・・		
委員	・魅力度は、いくつの自治体の中での順位なのか。		
吉澤企画係主査	東京23区、全国の全791市、及び地域ブランドへの取組みが注目される町村の合計1,000市区町村の中での順位である。		
吉澤企画係主査	(2)茅野市行政経営基本計画(案)について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span>		

	<p>・・・資料 2 に基づき説明・・・</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P8、職員数の推移が H27 から増加しているが、特にどの分野で増えているのか。また理由は何か。万遍なく増えているのであれば、はたして将来減らせるか、という判断になる。</li> </ul>
土橋総務課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H23 に減少している要因は、ふれあいの里（特養ホーム）を中央病院へ移管したことである。</li> <li>・増加の要因は、保育士の増員と、正規職員をコミュニティセンターへ 2 名ずつ配置したことで 20 名の増員、戦略的な部分で今年度からの機構改革による職員のはりつけ、また、ゆいわーく茅野の運営開始も、要因となっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P18、将来負担比率の目標指標について。提示された過去資料では、90%未満のところは、ここ数年ないが、10 年くらい前にはあったのか。</li> </ul>
小平企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来負担比率の制度ができたのが、平成 19 年度の決算からである。</li> <li>・茅野市の将来負担比率が高い大きな要因は、平成 25 年度に土地開発公社が解散し、市が借金の肩代わりをして、約 53 億の市債を発行したことによる。それについては計画的に負債が減っていくという見込みをしている。</li> <li>・今後 10 年間で 90%未満の考え方について、県内 19 市の数値の平均は約 70%であることを踏まえ、90%未満を目標とした。</li> <li>・将来負担率は、借金から貯金を差し引いた額が多ければ数値が大きくなるという計算式である。茅野市はこの公社の借金があり、基金の残高も他市と比べると若干少ないが、今後はできるだけ将来に負担を残さないようにしていく。</li> <li>・将来負担比率の計算は、標準財政規模等（市税、国からの交付税など）が分母となっている。この数値については、景気の変動によって、どう動くかは不透明である。また国からの交付税等も、先行きが見込めない状況であるが、90%を目指していきたい。</li> </ul>
委員	<p>【質問 1】 90%と決めると、そこに向かって何をするのか気にかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P11 歳出の状況で、公共施設をそのまま維持しようとする、現在の 2～3 倍の費用がかかり、費用を抑えるなら施設を半分程度減らさなくてはならず、目標指標は『50%～70%減少』となるはずだが、市民がパニックになってしまうことから、言葉としては『減少』としたのか。</li> <li>・市民から指摘された時に、説明ができるように、具体的な施策を用意していただきたい。</li> <li>・標準財政規模が、仮に 10 年先に 2 割減少した場合、今より 20%アップである。となると、150%でも相当の努力が必要となるかもしれない。</li> <li>・ひとつひとつはきれいな目標になっているが、全体のバランスを見ると矛盾だらけになる恐れがある。全体の政策としての具体策を真剣に議論、決める必要がある。</li> </ul> <p>【質問 2】 P23、『みんなのまちづくり支援事業の採択数』の増加は賛成である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は、誰でも何人でも単年度でも申請すればよかった。しかし 2 年ほ</li> </ul>

	<p>ど前にこの支援事業の助成基準を変えたことにより、一部の助成について申請しにくい仕組みになってしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに担当職員にはお願いしてあるが、すぐに仕組みを変えるのは難しいと思う。時間を掛け、市民が気楽に活用できるように考えてほしい。件数について変更の必要はないが、成果が上がるように中身を充実させていていただきたい。</li> </ul> <p>【質問 3】 P23、『新たな市民活動の創出数』は、ただ単に事業数が書かれているが、ここでカウントする事業の概念が分からない。事業内容、規模等を教えていただきたい。</p>
牛山市民活動センター長	<p>【質問 2】 への回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大幅な見直しにより、3つの支援事業としている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント支援企画事業…割合 10/10、限度額 10 万円、単年度事業。</li> <li>② スタート支援事業…1 年目～3 年目まで。年数により限度額変動有。</li> <li>③ 共同活動支援事業…複数の市民活動団体が新たに協働して行う事業支援。割合 6/10、限度額 30 万円。</li> </ul> </li> <li>・②については、公開プレゼンを行っているが、①については公開プレゼンを行わず、市で決めている。市民活動を始める場合は、①を活用していただきたい。</li> <li>・更に使いやすくなるように検討していく。</li> </ul> <p>【質問 3】 への回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はゆいわーく主催のウッドデッキのワークショップを NPO 団体と永明小学校、ゆいわーく、事業所とコラボしながら事業を行った。</li> <li>・ J O M O N ライフフェスティバルでは、市民館と諏訪東京理科大の学生とコラボした。</li> <li>・事業規模に関わらず、何らかの形でコラボする事業でまちを活性化していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働で行われた活動数という位置づけと、理解した。</li> <li>・ P29、職員提案件数に、(累計件数) とあるが、一人 10 件ずつ提案するのではなく、1 年に 2 件の提案数となっている。職員数からすると、努力が感じられないのではないか。</li> </ul>
小平企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員提案とは別に、3 月 4 月を除く 2 か月に一度、正規職員全員が業務改善報告をしている。年間 1,500 件以上となる。</li> <li>・職員提案は新たな大きい取組などの、政策的な提案である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員提案というと、業務改善提案と似ているため、『行政政策提案』などとしてはどうか。</li> </ul>
小平企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注釈に付記し、分かりやすくしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P31 広域行政の推進の目標指標に「増加」とあるが、いい印象はない。評価の段階で考えてほしいのは、連携事務数が増えることは良いように思えるが、今までの事務はそのまま、連携により職員を増やすことになっ</li> </ul>

ては、件数評価の増加という意味が出てこない。単に件数での評価ではなく、『連携により単独事業では職員数削減』といった、連携数の増加よりもコスト面の評価をした方が良く考える。

- ・P33、目標指標に『新たな自主財源の確保』とあるが、こちらも財源確保の件数だけが書いてある。前提条件として収支バランスが改善するということが必要である。自主財源を増やしても、維持費がかかるのでは、意味がない。プラスになることが前提であり、運用にあたっては効率収支を考え方の中に入れていただきたい。
- ・P27、正規職員数「減少」としている。指標の説明や方向性は書かれているが、具体的ではない。
- ・例えば『IT化を更に進めることによって、どこかの課の仕事を2割削減する』とか、『マイナンバーカードを市民が積極的に使う事により、市民課の職員が削減できる』など職員数を減少する時には、裏にあるアイデアが必要である。
- ・具体的な施策のアイデア集、思い付き集を積み重ね、その中から、お金・人・技術の問題で優先度をつけて出来るものをあげて、結果的にその成果が5年後・10年後に表れる。
- ・入区率についても、今まで色々なことをしているが飛躍的には上がっていない。今まで通り同じことをやっていると入区率は上がらない。
- ・役員や雪かきの煩わしさから、高齢者の退区が増えている。しかし、有事の際には、退区した高齢者を民生委員が見て回らなければならない。
- ・例えば、高齢者のみの世帯は出払いや役員は免除する。更に区費の減額（減額分は市が負担）を区条例で定めることで費用はどの位になるのかを試算し、実現可能な範囲であれば導入することで、高齢者は負担がなく、区民として支えることができる。それによって入区率が上がるという具体的なものを打ち出してほしい。
- ・P41、目標指標。まち懇の参加人数「増加」とあるが、せめて5%増などとしてほしい。30歳代の割合についても目標を掲げることはいいが、具体的なアイデアが見えない。理科大生のまち懇を増やす、また中学生のまち懇を開催するなどのアイデア、根拠のある仕組みを積極的に加えてほしい。

小平企画財政課長

- ・P31 広域行政の連携数、P33 新たな財源の確保について。費用対効果をきちんと捉えて評価できるよう、しっかりと点検をしていきたい。
- ・P18 将来負担比率について。制度がスタートしたH19年度は104、ピーク時が121という数字であった。この数字を出すにあたっては、下水道等の特別会計や、諏訪中央病院の会計も含めての計算となる。わかりやすい資料を、次回提示したい。

田中P推進課長

- ・P22 入区率について。5年で2ポイントずつ上昇するには、年間70世帯の加入が必要である。現状は29年4月～12月で44世帯である。今後、企業の工場拡大により、雇用・転入の増加の見込みも含めての目標値である。
- ・退区については見込んでいない。
- ・今までと同じ区の運営をしては行き詰まる。高齢者と区政については今後、コミュニティで議論していきたい。

委員

- ・P19 地域ブランド調査の評価項目とは何か。何を上げたら順位が上がるなどの項目はあるのか。

吉澤企画係主査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な評価項目は、基本的にはない。各都道府県にインターネットで調査を行って出している数字となる。</li> </ul>
地域戦略課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランド調査の全国順位の根拠は、魅力度、情報接触度、認知度であり、前年度・前々年度の数値に、希望的な数字を含めた数字となっている。茅野市では対策として、ネット環境の充実で若者を取り込んでいくという政策を考えている。</li> </ul>
土橋総務課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数については、民間活力を導入して職員数が減少するという、民間活力の活用とセットで考えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値で出ていない部分はそのまま減少や増加かという表記でいくのか。</li> </ul>
小平企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入者の視点からすると、入区は保守的で窮屈な制度に感じる。また、古くからの慣習などに巻き込まれて生活をするのは嫌だと感じることもある。指標設定をやめた方が良いというわけではないが、そう感じる人が多いのも事実である。</li> </ul>
田中P推進課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりとして考えると、高齢者になって出来なくなったことは地域で補えるような協力体制をとらなくてはいけない。共助の中に入っただき、仲間を増やすという感覚で入区を捉えていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P27、職員数減少について。保育園の民間委託により、相当減少すると思っていたが、減らなかった。人が減らず歳出が増えるようでは意味がない。新しい事業をする時に民間委託する場合と、今までの事業を民間委託や指定管理者に委託する場合の、棲み分けをする中で、職員数の管理が必要ではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員や地域住民がこの計画を見てやる気を持てるかという点については心配である。職員が変わっても指標等の根拠や説明ができるよう、別途資料を作成し、市のノウハウを蓄積していただきたい。</li> </ul>
小平企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の運用面については別途委員会にもお諮りしながら、具体的な取組をかたちにするための、意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度を上げるための取組が大切だと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながワクワク楽しめるようなことを、このような会議の場で考えられるようになると、とても楽しく参加できると思う。</li> <li>・四角四面な行政用語、丁寧な言葉遣いだけでなく、思ったことを発言できるようになるといいと思う。</li> <li>・茅野市のHPに、中高生が意見を書き込めるような場があるといいと思う。課題も多いと思うが、茅野市HPの閲覧数も上がるのではないかな。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P16、『新たな市民活動の創出』の目標指標について。市民活動数なのか、ゆいわーくが関わる協働事業なのかが分からない。最初に読んだ印象では、新たな市民活動団体の、増えた数字かと思った。</li> </ul>
牛山市民活動センター長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい活動団体だけではなく、新しい事業も含めた数字である。新しい事業が先だって団体ができる場合もある。団体プラス事業の場合もあるが事業のみの場合もある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの市民が関わることを考えた時に、分かりやすくするために、活動団体数と事業数の増減を別々の指標とするのはどうか。</li> </ul>
牛山市民活動センター長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の指標は、団体数や利用者数といった単純な数値ではなく、敢えてゆいわーく茅野が関わって新たに創出された事業数などハードルを高くし指標設定を行った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P24 市民活動の普及、啓発、連携、支援とあるが、どういった市民活動なのか具体的な説明があるといい。</li> </ul>
牛山市民活動センター長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注釈について事務局と検討したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P21 目標の上から3行目、「コミュニティ運営協議会」とあるが、他と同じく、「地区」を付けた方が同じものと伝わりやすいのではないか。</li> </ul>
田中P推進課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおりである。修正を検討したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P47 推進体制について。前回の会議で「市民委員会」は、「この委員会」とした方が良いと意見がなかったか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この「市民委員会」とは「行財政改革推進市民委員会」とは違う委員会という認識で良いか。</li> </ul>
小平企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の位置づけが行財政改革というよりも広い、行政経営という視点で作っている。この「市民委員会」は行革の視点だけではなく、もっと広い見地から意見をいただきたい組織に変えようかと、考えている。その際にはこの委員会にお諮りしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P23 あらゆる主体による市民活動の推進の目標に、『企業』という言葉がここで初めて出てきた。市民活動センターとして市民活動団体等への働きかけは行っているが、企業への働きかけにもう少し力を入れても良いと思う。</li> </ul>
牛山市民活動センター長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等とは、ソーシャルビジネスも含んでいる。</li> <li>・市民活動には自分たちで自主財源を確保してかなくてはいけない部分もあり、企業の社会貢献という意味でも一緒に活動してほしいことから、企業等と記載をした。</li> <li>・「市民活動」の注釈の中で、説明をしていく。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開所当時から感じていたが、もっと企業等に対し、ゆいわーくの概要や活用法、活動の提案をしてほしい。PR がまだまだ足りないと感じている。</li> </ul>
牛山市民活動センター長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おっしゃるとおりである。</li> <li>・来年度の、どんぱん事務局（JC）の会議は、市役所ではなくゆいわーくを利用する予定である。また、運営委委員会のメンバーにも企業関係者が入っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回追加となった「協働のまちづくり」は一番の目玉事業であると思う。</li> <li>・市民活動団体には、非常に熱心な人に周りがついて行けず、難しいところである。</li> <li>・入区についても、リサーチをするとゴミ当番や行事の参加が嫌だという意見が聞かれる。</li> <li>・指標について、人員や施設などは少なければ良いということでもなく、大きな旗振りによりメリハリを持ってやっていただきたい。</li> <li>・PDCA サイクルについては ACT が非常に難しいと常々思っている。実際、チェックとの差が出た時に、どうやって埋めていくのか。きっちり回していくのが本当のツボだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅苦しい計画になるのは仕方がないが、遊び心というか、ホッとするような考え方というのほしい。</li> <li>・受付の方の代わりに、例えば顔認識のできるロボットを置き、来庁者を覚えて話しかける、ロボット見たさに子どもが集まる、そんな柔軟さも期待したい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重なご意見をいただけたと思う。</li> <li>・このような計画は、やはりある程度、格調高く、堅いものとなってしまう。この分野は他の分野の下支えとなるところである。それぞれの分野でも委員会が開かれ、第 5 次総合計画を推進するためのいろんな案やアイデアも出てくると思う。</li> <li>・それではこれで協議事項を終了とする。</li> </ul>
吉澤企画係主査	<p>4 その他</p> <p>パブリックコメント：平成 30 年 2 月 21 日（水）～3 月 8 日（木）予定  分野別計画 議会全員協議会：平成 30 年 3 月 1 日（木）  次回委員会日程：平成 30 年 3 月 20 日（火）予定  市長への答申：平成 30 年 3 月 22 日（木）予定</p>
副委員長	<p>5 閉会</p> <p>本日も貴重なご意見をたくさんいただいた。事務局からもあったように、パブコメの意見を反映したものが 3 月 20 日の委員会に出され、まとめの会となる。</p> <p>本日もありがとうございました。</p>

以上